

# 1 はじめに

丸亀市算数部会は、平成14年度の研究テーマを香算研のテーマと同様に「子どもと算数を創る－数学的な考え方の育成を目指して－」とし、研究を進めてきた。

- 「数学的な考え方」については、県研究部では、
- 「内容に関わる数学的な考え方」
  - 「問題解決を支える数学的な考え方」
  - 「合理的な営みを支える数学的な考え方」

の3つに分類して捉えている。そこで、第5学年「変わり方のきまり」では、問題解決の際に、より便利なものに高めたり、広く使えるものにまとめたりする際に用いて、問題解決を繰り返す中で、児童に身につけて欲しい考え方（問題解決を支える数学的な考え方）の育成を中心に児童一人一人を大切にしたい少人数指導、評価を基に児童の側に立った支援の工夫を考え、授業実践を行った。

## 2 本校における少人数指導の捉え方

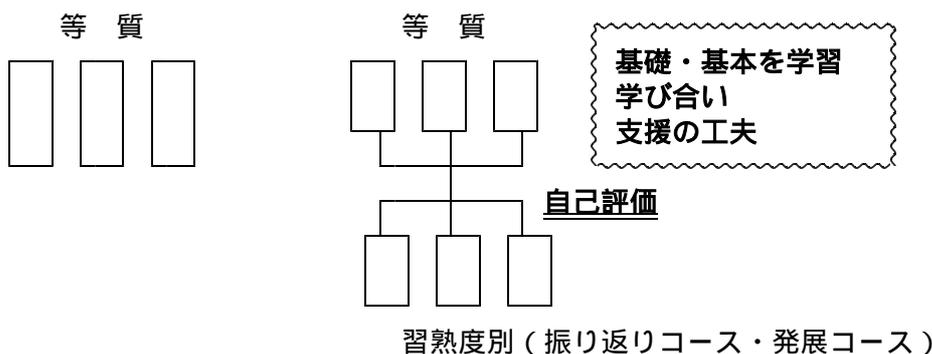
### (1) 基本的な考え方

すべての児童に分かる授業を通して学ぶ楽しさを味わわせ、基礎・基本の確実な定着を図るために、少人数グループを編成し、きめ細かな指導を行う。

### (2) 具体的実施方法

- ・ 3年以上の算数において、2学級を等質3グループに編成し、3名の教師（学級担任＋少人数担当教師）で指導を行う。必要に応じて単元の終末にて習熟度別グループを編成する。（児童の選択によるグループ編成）
- ・ 学年団を同じ時間に位置づけて3教室（教室＋算数教室）で授業を行い、できる限り進度をそろえる。
- ・ 少人数担当教師は、単元計画・週案の作成・授業用教材等の準備を行う。
- ・ 少人数担当教師が中心となって、補習を行う。

3年 月曜日 6校時                      4年 金曜日 6校時  
5年 火曜日 16時～                      6年 木曜日 16時～



## 3 本校における算数科の評価の考え方

学年団会（随時、空き時間を見つけて実施）や担当者会（学期2回程度）において、県作成の評価基準をもとに十分研究し、共通理解を図る。－検討中－

一人一人の児童の実態を把握し、前時の評価を生かして次時に関わる。



# 第5学年 算数科学習指導案

## 1 単元名 変わり方のきまり

## 2 単元について

### (1) 単元設定の意図

児童は、第4学年までに伴って変わる2つの数量について表やグラフに表し、変化の特徴を調べる学習をしている。本単元は、この学習の発展として、変化の様子を帰納的に考えて、問題を解決する活動を通して、「少ない場合から順に調べてきまりを見つける」思考法や表から対応のきまりを見つけてことばの式を作ること、「簡単な場合で調べて数量関係を見つける」思考法を育てることをねらいとしている。

そのために、本単元では、算数的活動を通して伴って変わる2つの数量をしっかりと見つけ、問題場面を把握させることを通して、表をかいていく場合の項目の表し方につなげていきたい。また、操作の限界に直面させることで、変化の様子を調べるには表を使えば分かりやすいことを気づかせていきたい。

### (2) 児童の実態

本学年の児童は、既習の学習内容についての調査をした結果、変わり方を表に表すことは、約70%できている。しかし、その表から分かることやそれをもとに や を使った式に表すことができるのは、約60%である。このことから、伴って変わる2つの数量のきまりを見つけていく思考法は、十分とは言えない。

また、課題に対して意欲的に取り組むが、既習事項を生かしながら見通しをもって調べたり、柔軟に思考する力がまだ育っていない。そのため、友達の考えから自分の考えを深めたり、他の考えに気づいたりするのは苦手である。

### (3) 支援の工夫(自分の考えをもつために)

本時は、図と表を比べることで、より表のよさに気づいていけるようにしたいと考える。図は正確に求められるが、大きな数の場合は時間がかかる。表は少ない場合できまりを見つけると大きな数の場合でも答えを早く求められるし、本数から段の数を求めるという表を逆に見て考えることもできるよさがあることに気づいていけるように話し合いの時間を大切にしていきたい。

そのために自力解決の場において自分の考えがもてるようにするために、座席表にてチェックを行い、解決の糸口がつかめない児童には、図や表などのヒントカードを用意し、主体的に取り組んでいけるように支援していきたい。

練習問題においては、児童が意欲的に活動するために自分のやりたい問題を選んで解いていくようにしたい。その際、机間巡視を行いながら、ワークシートを見てチェックをし、表をかいて考えている児童に積極的に声を掛け、表から見つけたきまりを使ってやりとりをしながらしっかり賞賛していきたい。なお、本時の終末につまずきのある児童においては、個別指導を行っていきたい。

## 3 単元の目標

伴って変わる2つの数量を見つければ、それらの関係を表や式を使って進んで調べようとする。

表や図から2つの数量のきまりを見つければ、それらの関係を表や式を使って進んで調べようとする。また、「数の少ない場合から順々に調べる」思考法や「簡単な場合で調べる」思考法のよさが分かり、これらを活用して問題を解くことができる。

表を用いて2つの数量の変わり方や対応に着目し、2つの数量の関係を、 と を用いた式に表すことができる。

表を用いて2つの数量の関係を捉える仕方や、2つの数量の関係を、 と を用いて式に表す仕方が分かる。



4 学習指導計画（全8時間）

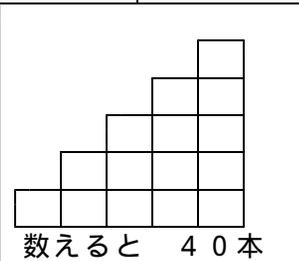
学習内容・時間	評価規準	学習形態
<p>数の少ない場合から順に調べ、数量の間の規則性を見つけて問題解決する。</p> <p>（2時間） 本時2 / 2</p>	<p>【関】伴って変わる2量について、その変わり方に関心をもち調べようとする。</p> <p>【考】伴って変わる2量の関係を表す表からきまりを考えることができる。</p> <p>【表】伴って変わる2量について、表に表すことができ、問題を解決できる。</p> <p>【知】伴って変わる2量について、変化のきまりを調べる方法を理解している。</p>	<p>等質 少人数</p>
<p>2量の変化の様子を表にかいて、きまりを見つけ、ことばの式に表し問題解決する。</p> <p>（3時間）</p>	<p>【関】伴って変わる2量についてことばの式ややを使った式に表すよさに気づく。</p> <p>【考】2つの数量の関係をことばの式や、などを用いた式で表して数量の関係を考えようとする。</p> <p>【表】2つの数量の関係をことばの式や、などを用いた式で表すことができる。</p> <p>【知】ことばの式や、などを用いた式で表すなど、数量の関係の見方や調べ方を理解している。</p>	<p>等質 少人数</p>
<p>伴って変わる2つの数量について自己評価をして、自分のコースを決める。</p> <p>（1時間）</p>		
<p>伴って変わる2つの数量について考えを深めたり、広げたり、自分の分からないところをやり直したりする。</p> <p>（2時間）</p>	<p>&lt;じっくりコース&gt;</p> <p>【関】自分の分からないところを復習しようとする。</p> <p>【考】伴って変わる2量の関係を表す表や式から数量の関係を考えようとする。</p> <p>【表】伴って変わる2量の関係を表や式に表すことができ、それをもとに未知な場合の値の組を求めることができる。</p> <p>【知】伴って変わる2量の関係の表や式への表し方を理解している。</p> <p>&lt;どきどきコース&gt;</p> <p>【関】人の並び方に関心をもち、いろいろな文字や数字の場合で調べようとする。</p> <p>【考】折れ線の文字や環状の文字の場合の子ども数と間の数のきまりを使って、人数を考えようとする。</p> <p>【表】折れ線の文字や環状の文字の場合の子ども数と間の数のきまりが分かり、いろいろな文字で人数を求めることができる。</p> <p>【知】折れ線の文字や環状の文字の場合の子ども数と間の数のきまりを理解している。</p> <p>&lt;わくわくコース&gt;</p> <p>【関】数の並び方に関心をもち、10段のピラミッドをつくろうとする。</p> <p>【考】段ごとの数の和や斜めの数の並び方のきまりを考えようとする。</p> <p>【表】数のピラミッドのかき方が分かり、いろいろなきまりを見つけることができる。</p> <p>【知】数のピラミッドのかき方や段ごとの数の和、斜めの数の並び方などの調べ方を理解している。</p>	<p>習熟度別 少人数</p>

5 本時の学習指導

(1) 目標

ひごの階段作りの問題から、変化の様子を表す方法としての図や表の特徴を見つけることを通して、特に数量間の規則性を見つけやすいという表の特徴を使って具体的問題を解くことができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	予想される児童の意識の流れ	教師の支援活動												
1 問題場面について話し合い、本時の学習問題を作る。	<p>今日はひごの問題だ。段の数が増えると何が変化しているかな。</p> <p>ひごの数、正方形の数、まわりの長さ、面積など</p> <p>変化する2つ数量はいろいろあるな。まずは、ひごの数から考えてみよう。</p> <table border="1" data-bbox="589 795 1139 878"> <tr> <td>段の数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ひごの数</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	段の数	1	2	3	4	5	ひごの数	4	10	18			<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の変化の様子を整理して規則性を調べたことを想起させるために図や表を前面横に貼っておく。</li> </ul>
段の数	1	2	3	4	5									
ひごの数	4	10	18											
2 自力解決する。(5段の時)	<p>変化する2つの数量の関係を数の少ない場合から順に調べ、きまりを見つけよう。</p> <p>表をかいてみよう。</p> <p>図をかいてみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="498 1193 666 1468"> <p>横に見る</p> <p>段の数が1増えるとひごの増える数が2ずつ大きくなっているな。</p> </div> <div data-bbox="685 1193 853 1468"> <p>縦に見る</p> <p>段の数が1増えるとかける数が1ずつ増えているな。</p> </div> </div>  <p>数えると 40本</p> <p>図にかくと正確に答えが求められるな。</p> <p>大きな数になると時間がかかって大変だな。</p> <p>表を横に見たり、縦に見たりして、きまりを見つけると大きな数もできそうだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物を1, 2, 3段と順に提示することにより学習への意欲づけをする。</li> <li>段の数の変化に伴い、ひごの本数が変わっていくことをはっきりさせるために3段目までは全員で考える。</li> <li>解決の糸口がつかめない児童には、実物や図や表などのヒントカードを準備しておく。</li> <li>変化のきまりを見つけ出せない児童には、表を横に見させ、それぞれの本数の差に着目するように助言する。</li> <li>計算におけるつまづきをなくすために電卓を用意しておく。</li> <li>1つのきまりを見つけ出せた児童には、他のきまりがないかを考えるように助言する。</li> </ul>												
3 どのように考えたかについて話し合う。	<p>表にしておくと、ひごの数から段の数を求めるという逆の見方もできるな。</p> <p>表の方が便利そうだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算におけるつまづきをなくすために電卓を用意しておく。</li> <li>1つのきまりを見つけ出せた児童には、他のきまりがないかを考えるように助言する。</li> </ul>												
4 練習問題を解く。	<p>自分のやりたいものできまりを見つけよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="502 2058 695 2112">正方形の数</div> <div data-bbox="753 2058 946 2112">まわりの長さ</div> <div data-bbox="1062 2058 1159 2112">面積</div> </div>	<p>評 伴って変わる2つの量の関係を少ない場合から図や表にかいて順に調べることができたか。</p>												
5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>少ない場合から表にかいてきまりを見つけると大きな数の場合でも求めることができたな。</li> <li>今日のは、1回の変化ではきまりが見つからなかったな。2, 3回調べることが大切だな。</li> <li>逆の見方をすると、本数などから段の数を求めることができたな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表にかいて考えた児童には、表をどのように見てきまりを見つけたのか根拠を説明させる。</li> <li>表と図をつなぎ、推測したきまりが正しいことをおさえる。</li> <li>増加分が常に一定でない場合もあることを知らせる。</li> <li>「70本では何段できるかな。」という逆の見方の問題を提示し、表の便利さを感じられるようにする。</li> <li>表がかけなかった児童には、表のよさを振り返らせるように助言する。</li> <li>ワークシートに分かったことなどを入れて感想を書くように助言する。</li> <li>次時からは、見つけたきまりからことばの式や や を使った式に表すことを知らせる。</li> </ul>												



< 変容 > p 9 20番の児童

・【 】 形成的評価 ・ 児童の反応 ・ 教師の支援

時間	S男 (第1次評価 【A】)																		
折り目	<p>【A】</p> <table border="1"> <tr> <td>折った回数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>折り目の数</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>15</td> <td>31</td> <td>63</td> <td>127</td> <td>255</td> </tr> </table> <p>増やしていく数が2ずつ増えている。  「他にきまりはないかな？」  <math>\times 2 + 1 =</math>  「言葉も付け加えておくと分かりやすいね。」</p>	折った回数	1	2	3	4	5	6	7	8	折り目の数	1	3	7	15	31	63	127	255
折った回数	1	2	3	4	5	6	7	8											
折り目の数	1	3	7	15	31	63	127	255											
ひこ	<p>【A】</p> <table border="1"> <tr> <td>だんの数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ひごの数</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>28</td> <td>40</td> <td></td> </tr> </table> <p>増やしていく数が2ずつ増えている。</p>	だんの数	1	2	3	4	5		ひごの数	4	10	18	28	40					
だんの数	1	2	3	4	5														
ひごの数	4	10	18	28	40														
本時																			
選択問題	<p>【A】 &lt;面積&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>だんの数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>面積</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>28</td> <td>36</td> </tr> </table> <p>だんの数だけ増えている。  「9段の時はいくつ?」「10段の時は?」</p>	だんの数	1	2	3	4	5	6	7	8	面積	1	3	6	10	15	21	28	36
だんの数	1	2	3	4	5	6	7	8											
面積	1	3	6	10	15	21	28	36											
三角形	<p>【A】</p> <table border="1"> <tr> <td>正三角形の数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>まわりの長さ</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> </table> <p>増える数が1ずつ増える。  正三角形の数 + 2 = まわりの長さ</p>	正三角形の数	1	2	3	4	5	6	7	まわりの長さ	3	4	5	6	7	8	9		
正三角形の数	1	2	3	4	5	6	7												
まわりの長さ	3	4	5	6	7	8	9												
四角形	<p>【A】</p> <table border="1"> <tr> <td>だんの数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>まわりの長さ</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>28</td> </tr> </table> <p>だんの数 <math>\times 4</math> = まわりの長さ  「他にないかな？」  まわりの長さ - 4 = だんの数</p>	だんの数	1	2	3	4	5	6	7	まわりの長さ	4	8	12	16	20	24	28		
だんの数	1	2	3	4	5	6	7												
まわりの長さ	4	8	12	16	20	24	28												
人文字	<p>【A】</p> <table border="1"> <tr> <td>間の数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>.....</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>人の数</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>.....</td> <td>21</td> </tr> </table> <p>人の数は間の数より1多い。  「ことばの式が作れるかな？」  間の数 + 1 = 人の数</p>	間の数	1	2	3	4	5	.....	20	人の数	2	3	4	5	6	.....	21		
間の数	1	2	3	4	5	.....	20												
人の数	2	3	4	5	6	.....	21												

< 支援のまとめ >

- ・ S男  
 賞賛する。  
 他の考え(きまり)を考えるように助言する。  
 説明がより分かりやすくなるように考えるように助言する。(付け加え)

時間	K子 (第1次評価 【C】)																		
折り目	<p>【C】</p> <table border="1"> <tr> <td>折った回数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>折り目の数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>?</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>悩む                      「実際に折ったり、図をかいてみるとはっきりするよ。」</p>	折った回数	1	2	3	4	5	6	7	8	折り目の数	2	4	7	?				
折った回数	1	2	3	4	5	6	7	8											
折り目の数	2	4	7	?															
ひご 本時	<p>【B】 ひごを使って表を完成</p> <table border="1"> <tr> <td>だんの数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ひごの数</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>28</td> <td>40</td> <td></td> </tr> </table> <p>ひごを準備(具体物)</p>	だんの数	1	2	3	4	5		ひごの数	4	10	18	28	40					
だんの数	1	2	3	4	5														
ひごの数	4	10	18	28	40														
選択問題	<p>【A】 &lt;正方形の数&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>だんの数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>正方形の数</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>28</td> <td>36</td> </tr> </table> <p>最初は図をかいて考えていたが、間接的な情報提供により変化                      たしていくところがどんどん1ずつ増えている。</p>	だんの数	1	2	3	4	5	6	7	8	正方形の数	1	3	6	10	15	21	28	36
だんの数	1	2	3	4	5	6	7	8											
正方形の数	1	3	6	10	15	21	28	36											
三角形	<p>【B】</p> <table border="1"> <tr> <td>正三角形の数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>まわりの長さ</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> </table> <p>1 cm ずつ増えている。                      「他にきまりはないかな？」                      学び合いにより縦の見方を気づかせる。                      表で確認しながら や を当てはめる。</p>	正三角形の数	1	2	3	4	5	6	7	まわりの長さ	3	4	5	6	7	8	9		
正三角形の数	1	2	3	4	5	6	7												
まわりの長さ	3	4	5	6	7	8	9												
四角形	<p>【B】</p> <table border="1"> <tr> <td>だんの数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>まわりの長さ</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>28</td> </tr> </table> <p>4 cm ずつ増えている。                      4 のかけ算になっている。                      表で確認しながら や を当てはめる。</p>	だんの数	1	2	3	4	5	6	7	まわりの長さ	4	8	12	16	20	24	28		
だんの数	1	2	3	4	5	6	7												
まわりの長さ	4	8	12	16	20	24	28												
人文字	<p>【A】</p> <p>図による</p> <p>人の数は1ずつ増えている。                      「表でも調べてごらん？」</p>																		

< 支援のまとめ >

- K子 <基礎・基本が確実に定着するように>  
 ノートのコメントによる励まし(ヒント)  
 具体物の準備  
 間接的な情報提供  
 学び合いによって他の考えを気づかせる。  
 賞賛する。

## 6 考察

### (1) 少人数指導

少人数だったので、一人一人に次時へ生かすための形成的評価ができ、きめ細かく児童と関わることができた。～子どもと算数を創る～

#### 習熟度別学習

「計算の見積もり」で行ったコース内容よりは、本単元の方がよかった。今後は、コース内容をしっかり吟味し、児童のニーズに合ったものでないといけないと感じた。自己評価して自分でコースを選択していく回数をもっと重ねていくと、より自分に合ったコース選択ができるようになると思う。

#### 情意面アンケートより (5年生の声)

- ・ だんだん分かりやすくなってきた。
- ・ 難しいけど考えると楽しくなってきた。

できる楽しさ

- ・ 先生がよく見てくれる。
- ・ 発表や質問がやりやすい。
- ・ 発表の回数が増えた。

きめ細かな指導

- ・ 友達の考えと比べられる。

学び合い

- ・ 自分でコースが選べて、復習できる。
- ・ 自分が選んだコースは楽しい。難しい。もっと完璧にした

習熟度別学習

### (2) 評価

評価基準をきちんと位置づけておくことで、児童への支援がはっきりし、どの児童にもしっかり関わることができた。どの場面でもどの児童に支援していくかという指導者(教師)の姿勢も大切であると感じた。

本時、練習問題ができていない児童への声掛けは、できていない児童への間接的な情報提供になった。

本単元は、表から分かる増えた数と図をしっかりと関連させて、視覚的に確認していくと遅れて進む児童への支援になったと考えられる。

#### < 今後の課題 >

形成的評価をどのように総括的評価に生かしていくか。

- ・ 職員間の共通理解を図ることが大切(体制づくり)
- ・ どのような評価をしておくか。

個に応じた少人数指導だったので、より多くの児童に基礎・基本を定着させることができ、数学的な考え方も少しずつ育ってきた。



自己評価プリント

変わり方のきまり 5 - ( ) ( )

少ない場合から順に調べて

正三角形の色板を下のようにならべて、ピラミッドの形をつくります。

(1) 色板の数を調べて下の表に書き入れましょう。

だんの数	1	2	3	4	5
色板の数	1	3			

(2) 6 だんの時、色板の数は何枚になるでしょう。

考え方

答え \_\_\_\_\_

(3) 色板が 28 枚になるのは、何だんならべたときでしょう。

考え方

答え \_\_\_\_\_

きまりを式に表して

下の図のように、紙テープをピンでとめていきます。

(1) ピンの数を調べて下の表に書き入れましょう。

紙テープの数(本)	1	2	3	4	5
ピンの数(こ)	2	3			

(2) 紙テープの数を 本、ピンの数を ことして、 と の関係を式に表しましょう。

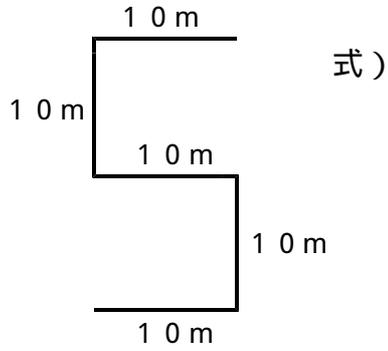
答え \_\_\_\_\_



かんたんな場合で調べて

子どもが1 mおきにならんで人文字をつくっていきます。

左のような5の数字は、何人ならばよいでしょう。



答え \_\_\_\_\_

コース選たくカード

( ) クラス  
5 - ( ) ( )

「変わり方のきまり」の学習が終わりました。

小テストはどうでしたか？ しっかり答えられましたか？

次の2時間は自分がやってみたいコースでお勉強します。

あなたがやってみたいコースを選びましょう。

( ) じっくりコース・・・先生といっしょにもう一度分かっていない部分をふり返り、復習します。

( ) ときどきコース・・・今までに習ったことをもとにいろいろな形の人文字の問題にチャレンジします。

( ) わくわくコース・・・今までに習ったことをもとにふしぎな数のピラミッド問題から、いろいろなきまりを見つけていく学習をします。

## 単元 「変わり方のきまり」(第5学年)

### (1) 提案の概要

「少ない場合から順に調べてきまりを見つける」という考え方の習得に向けて、単元前半を等質、後半は習熟度別で編成した少人数指導の実践である。

ビデオでも紹介したように具体的な操作の時間も十分に確保し、解決の糸口が見つからない子どもにはヒントカードなども用意した。

また、香算研作成の判断基準も参考にしながら、毎時間、観点ごとの判断基準を設定し個の学習状況を把握していった。ここでの各時間の形成的評価が、次の時間にきめ細かく児童にかかわっていくことに役立ったと考える。授業を受けた児童も、こうした少人数指導に対しては、「発表や質問がしやすい」「先生がよくみてる」などと肯定的に受け止めていたようである。



### (2) 討議の概要

提案事例では、各時間の評価について、その基準をしっかりと設けてきめ細かに学習状況を把握することができている。

ところで、本実践のような単元においては、計算技能などの評価と違い、単元の途中ではAと評価できたのに単元末にテストをしてみるとBやCという結果になったということはないか。この単元に限らず、日々の評価の中でそのようになり判断に困った経験がある。もちろん、単元途中にBだった子どもが補充的な学習などで理解を深め最終的にAとなったならば、それはAの力があると認めていきたい。しかし、このような場合はどう判断していけばよいのか課題である。

### (3) ご指導の概要

授業の中でいろいろな体験をしていくこと、よりよい考えを選択していくことが大切である。本実践では、ひごを使っての具体的な操作や、他の考えにふれていく中で自分の考えを修正していくことなどが重視されていた。

1時間の授業の中では行う評価は1つでよい。そして、単元の過程の評価と終末の評価を総括することで、単元全体としてはどの児童も4つの観点すべての評価ができていければいいのである。評価は評価のためでなく、支援に生かすためのものでありたい。

少人数の指導については、まずねらいは何かを明確にしたい。授業のどこが変わらなければならないのか。人数が減ったからというだけで、みんなでやるときと同じでは少しさびしい。理解度や到達度に応じた展開、興味・関心に応じた展開にしていくことで、ダイナミックな展開ができるであろう。